

【蒲郡市】校務DX計画

1 現状と課題

本市では、平成28年度に、1つのシステム内で「学籍・名簿管理」「出席管理」「成績管理」「保健管理」といった校務に関する様々な機能を提供する統合型校務支援システムを導入することで、教職員の負担軽減および校務の効率化を図ってきた。安全性を重視し、システムを閉域網で稼働させ、校務用端末の設置場所を固定しているが、GIGAスクール端末とのデータ連携が課題となっている。また、『GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト』による自己点検の結果において、全国的に「クラウドサービスを活用しきれていない」「FAXの利用」「教員・保護者間の押印・署名が必要な書類のやり取り（不必要な押印・署名）」といった校務の効率化やペーパーレス化を阻害する要因が浮き彫りとなった。本市においても、なお改善の余地が認められ、課題の解決が求められている状況である。

2 校務DXの取組について

- (1)Microsoft アカウントを全ての教職員・児童生徒に付与し、Microsoft365を活用した校務や授業ができる体制で、以下の校務DXに取り組んでいる。
- (2)支援ツールを活用するための研修会やMicrosoft365 やクラウドサービス等の活用のための研修会を市内や校内で開催している。
- (3)「情報推進委員会」や各校の情報主任教員を集めた「情報部会」を組織立て、ICT活用の現状や課題、今後の方向性について話し合いを行っている。
- (4)AI デジタルドリル「ドリルパーク」を導入し、宿題として活用している。紙のプリントを削減、丸付けの手間を省いている。
- (5)保護者や生徒、教職員アンケートをMicrosoftFormsを活用して、これまで紙で回答をしてもらっていたアンケートをクラウド化した。保護者会の希望時間をMicrosoftFormsで行っている学校が増えてきている。
- (6)研修会や講演会を、MicrosoftTeamsの会議機能を利用したオンラインで実施している。
- (7)ICT支援員の配置本市では市内20校に、毎週1回程度、ICT支援員を巡回配置し、校務補助や授業支援、教材作りの補助を行っている。全国学力・学習状況調査の一部がCBT化されるなどの新しいシステムに対応するために生じる業務の補助を行うことにより、教員の負担軽減になっている。

3 「GIGA スクール構想の下での校務DX チェックリストの自己点検結果」における課題

「GIGA スクール構想の下での校務DX チェックリスト」による自己点検結果（文部科学省令和6年11月実施）では、「児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を家庭で利用できるようにしている」、「学校から保護者へ発信するお便り・配布物をクラウドサービスを用いて一斉配信している」などの項目では、一定の成果をあげることができているが、「クラウドサービスを活用した取り組み」において、さらなる推進の必要性がある。また、併せて以下のような課題があると考えられる。

(1) 教職員のスキルと意識

教職員間に ICT スキルの差があり、ICT の活用に対する考え方も様々である。ICT に対して苦手意識のある教職員に対して、どのようにアプローチしていくかが課題である。また、新しいアプリの使用方法を学ぶための時間や授業で活用できるマニュアルが充分ではない状況である。Microsoft365 等の便利なクラウドツールが導入されているが、機能を使いきれていない状態である。

(2) ルール・規則について

本市では、蒲郡市教育情報セキュリティポリシーや、小中学校における ChatGPT 等の生成 AI の教職員の利用に係る規約を示している。また、FAX や押印などの慣例となっている業務が一部に存在する。

4 今後の校務DXの取組について

これらの現状を鑑み、今後は以下の項目について、重点的に校務DXを推進する。

(1) 教職員向けの取組

- ・教職員向けの研修会を開催し、ICT活用スキルの向上を目指す
- ・ICTに係る校務文書担当者の増員を目指す

(2) ルール・規則への取組

- ・蒲郡市教育情報セキュリティポリシーや、小中学校における ChatGPT 等の生成 AI の教職員の利用に係る規約の見直し
- ・FAX・押印の見直しに向けての検討

(3) その他・クラウドサービス活用の拡充

- ・次期校務支援システムに向けての検討を加速させる